

第 11 期(令和 2 年度)事業報告書

自 令和 2 年 4 月 1 日

至 令和 3 年 3 月 31 日

一般財団法人住環境財団

I 現況及び概要

1. 事業内容

(1) 目的

地域社会への貢献という理念に基づき、環境活動に対する助成・支援を行うことを目的とする。

(2) 事業の範囲

上記の目的を達成するために以下の事業を行う。

- 1) 助成・支援に関する事業
- 2) 環境教育に関する事業
- 3) 前2号に関連する人材の育成に対する事業
- 4) 不動産の賃貸、貸与又は管理
- 5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

II 実施事業の概要

1. 助成・支援事業

(1) 赤門脇トイレデザインコンペティション(仮称)

大学キャンパスが兼備すべき公共性や保健性を考える契機として捉え、東京大学に所属する学生・研究員を対象にインクルーシブな社会を象徴する施設として「小さなトイレ」のデザインコンペを実施する。

1) 受賞者

最優秀賞「ひとのトイレ」

木村七音流(新領域創成科学研究科)・斎藤亘佑(法学部)・川本亮(医学部)

優秀賞「東京のトイレ、大学の屋根」

内倉悠(学際情報学府)・横山隼也(工学系研究科)

優秀賞「UT Palimpsest-赤く重ね書きされた壁」

Satavee Kijsanayotin(工学系研究科)・廣野 智史(工学系研究科)

優秀賞「〈空き地〉の年輪」

小林大輝(理学部)・武田麻鈴(文学部)・菊池凜(法学部)

2) 審査委員

【委員長】隈研吾・【副委員長】出口敦

【委員】秋田喜代美・加藤耕一・熊谷晋一郎・清水晶子・千葉学・中井祐

3) 今後の予定

令和3年3月17日に表彰式・シンポジウムを開催し、4月以降に実施設計を行い、令和3年中に建設予定。

4) 助成金額 30,000千円（令和3年1月に支払い）

(2) メムアグリプロジェクト

北海道の帯広近郊はほとんど果樹が育たない地域として知られています。東京大学の生産技術研究所と大学院農学生命科学研究科が協同で工学と農学の知を集結し、この地域に果樹や樹木を植樹して育成に関する研究を実施する。

1) 実施概要

- ① 現地の土壌をサンプリングし土壌状態を把握する。
- ② 気象センサーを設置し、現場の気象状況を把握する。
- ③ 米国で盛んなピーカンナッツの栽培の可能性を検討する。
- ④ ③において、遺伝情報を元に対象地域に適した苗を選定する。
- ⑤ ①から④を元に、対象地域における果樹や樹木を選定し育成する。
- ⑥ 選定した果樹、樹木から地域の特産になる加工食品を生産可能か検討する。
- ⑦ 将来を見据えて、IOTやロボティクス技術の導入を検討する。

2) 研究メンバー

大学院農学生命科学研究科

堤伸浩(研究学長・教授)、藤原徹(教授)、岩田洋佳(准教授)、本田親子(准教授)

空間情報科学研究センター: 瀬崎薫(教授)

生産技術研究所

大石岳史(准教授)、巻俊宏(准教授)、沖一雄(特任教授)

3) 今後の予定

令和3年5月から9月: 土壌サンプリング、気象センサー設置、果樹・樹木の選定

令和3年10月: 植樹

令和3年10月以降: 定期的な管理

4) 助成金額 10,000千円（令和3年3月に支払い）

- (3) 寒冷地の高齢者施設を対象とした換気が室内の空気質・温湿度・エネルギー消費量に及ぼす影響に関する研究(継続研究)

寒冷な冬季環境下にある北海道大樹町の高齢者施設を対象として、空気質、温湿度を適切な状態に保ちつつエネルギー消費を抑えるために、換気と暖房・加湿のバランス、換気経路の改善の検討に関する研究を実施する。

1) 実施概要

高齢者施設に設置された換気扇の屋外排気口で採取された温度データから換気扇のON/OFFを同定し、時々刻々の排気量とその分布を明らかにし、偶発的なON/OFFの生起が建物内気流性状の及ぼす影響を検討した。

この結果を多数室換気計算に反映させ、建物内の気流の経路を明らかにし、暖房・換気・加湿など設備を用いた室内環境調整の改善策を提案した。

2) 研究メンバー

神戸大学大学院工学研究科 高田暁教授

- 3) 助成金額 1,500 千円 (令和 2 年 8 月に支払い)

- (4) 博物館の収蔵・展示スペースの空気室温環境の最適化に関する研究

関西の博物館を対象として、資料の保管・展示環境と環境調整のためのエネルギー使用の実態を把握し、それに基づいて望ましい収蔵・展示環境とその制御の考え方を確立することを目的とした研究を実施する。

1) 実施概要

- ① 収蔵スペース、展示スペース環境の実態把握
- ② 空調・換気システムの運転とエネルギー消費の実態調査
- ③ 温湿度・風量解析プログラムの作成
- ④ 博物館の最適設計、最適制御に関する検討

2) 研究メンバー

京都大学 銚井修一名誉教授、工学研究科 小椋大輔教授、伊庭千恵美准教授

- 3) 助成金額 4,500 千円 (令和 2 年 8 月,10 月に支払い)

- (5) 大樹研究プロジェクト(継続研究)

過去に当財団が実施した「国際大学建築コンペ」での最優秀作品は、建設まで行い現在、東京大学へ寄贈し一般へ公開しております。

最初の作品建設から 10 年が経過し、経年劣化を防ぐため修繕を実施し、公開を継続的に行えるようにすることを目的とする。

1) 助成金額 5,000 千円 (令和 3 年 1 月に支払い)

(6) 山階鳥類研究所賛助会員(継続研究)

1) 助成金額 800 千円 (令和 2 年 6 月に支払い)

2. 収益事業

研究施設として北海道広尾郡大樹町に開設したメムメドウスですが、一般財団への組織変更に伴い閉鎖いたしました。

遊休となった建物等の有効活用を図るため、ホテルへ一部不動産の賃貸を平成 31 年 2 月より実施しましたが、新型コロナウイルスの影響もあり収益の改善が見込めない状況となっております。

本業である助成・支援事業への影響を考慮し、収益事業の大幅な縮小を図り赤字の改善に取り組みました。将来においては、収益事業を廃止する予定であります。

今期の収益事業損益は下記のとおりです。

	項 目	金 額
収入	施設賃貸収入	3,036 千円
費用	減価償却費ほか	18,907 千円
	収益事業損益	▲15,871 千円

Ⅲ 評議員及び役員に関する事項(令和 3 年 3 月 31 日現在)

1 評議員

役 名	氏 名	就任年月日	区 分
評議員	坂村 格	平成30年6月26日	非常勤
評議員	河野 雄介	平成30年6月26日	非常勤
評議員	眞田 容子	平成30年6月26日	非常勤

2 理事及び監事

役名	氏名	就任年月日	区分
理事長	高畑 久明男	令和 2年5月28日	常勤
理事	佐久間 司	令和 2年5月28日	常勤
理事	潮田 洋一郎	令和 2年5月28日	非常勤

役名	氏名	辞任年月日	区分
理事	潮田 正子	令和 2年5月28日	退任

監事	和田 芳幸	令和 1年5月17日	非常勤
----	-------	------------	-----

IV. 理事会・評議員会の開催状況

(1) 理事会(通常)

日時:令和2年4月29日

開催場所:書面決議

決議事項:第1号議案 第10期(平成31年度)事業報告の承認の求める件
:第2号議案 第10期(平成31年度)財務諸表等の承認を求める件
:第3号議案 定時評議員会招集の承認を求める件
:第4号議案 基本財産の株式に関する議決権行使の承認を求める件

出席等:提案書に対し、理事全員の書面による同意の意思表示により、理事会の決議があったとみなされた。

(2) 評議員会(定時)

日時:令和2年5月25日

開催場所:書面決議

決定事項:第1号議案 第10期(平成31年度)事業報告書の承認を求める件
第2号議案 第10期(平成31年度)財務諸表等の承認を求める件
第3号議案 定款の一部変更の承認を求める件
第4号議案 理事選任の承認を求める件

出席等:提案書に対し、評議員3名全員の書面による同意の意思表示により、評議員会の決議があったとみなされた。

(3) 理事会(臨時)

日時:令2年6月1日

開催場所:書面決議

決議事項 第1号議案 代表理事選任の承認を求める件

出席等:提案書に対し、理事全員の書面による同意の意思表示により、理事会の決議があったとみなされた。

(4) 理事会(通常)

日時:令和2年7月8日

開催場所:オンライン(ZOOM)

決議事項:第1号議案 事務局長選任の承認を求める件

報告事項:代表理事の職務執行状況

出席等:決議に加わることの出来る理事3名中3名が出席し議案に対して、全員一致をもって承認可決された。

(5) 理事会(通常)

日時:令和3年2月26日

開催場所:書面決議

- 決議事項:第1号議案 令和3年度事業計画の承認を求める件
第2号議案 令和3年度正味財産増減予算の承認を求める件
第3号議案 令和3年度資金計画及び設備投資の見込みの承認を求める件
第4号議案 基本財産の一部入替の承認を求める件
第5号議案 財産管理運用規定の改定の承認を求める件
第6号議案 臨時評議員会招集の承認を求める件

出席等:提案書に対し、理事全員の書面により同意の意思表示により、理事会の決議があったとみなされた。

(6) 評議員会(臨時)

日時:令和3年3月12日

開催場所:書面決議

- 決議事項:第1号議案 基本財産の一部入替の承認を求める件

出席等:提案書に対し、評議員3名全員の書面による同意の意思表示により、評議員会の決議があったとみなされた。